

科目名	解剖学1			学年	1年 期生
担当者				期別	前期
単位数	1単位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回			専任・兼任	兼任
実務経験	歯学博士取得、大学勤務、大学名誉教授、大学非常勤講師				
一般目標(GIO)					
<p>解剖学は医療にたずさわるものに取り、非常に重要な基礎学問である事を理解する。</p> <p>解剖学を学ぶことにより、人体の肉眼解剖学的及び組織学的、更には細胞学的知識が理解できる。</p> <p>特に、運動系である骨と筋について詳細に解説ができる。</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	23	2	人体解剖学概説	解剖学の意義と基本的解剖学用語を説明できる。
2	5	7	2	人体解剖学概説	細胞増殖の仕組みを説明できる。
3	5	14	2	人体解剖学概説	組織の分類と特性及び発生を説明できる。
4	5	17	4	人体解剖学概説	人体の区分を説明できる。
5	5	21	2	骨格系	骨の構造と機能を説明できる。
6	5	28	2	骨格系	関節の種類を説明できる。
7	6	4	2	骨格系	脊柱の構造と構成する骨を説明できる。
8	6	11	2	骨格系	胸郭を構成する骨を説明できる。
9	6	18	2	骨格系	上肢帯と上肢を説明できる。
10	6	25	2	骨格系	骨盤について説明できる。
11	7	2	2	骨格系	下肢の骨について説明できる。
12	7	9	2	骨格系	頭蓋骨・顔面頭蓋を説明できる。
13	7	16	2	骨格系	脳頭蓋について説明できる。
14	7	23	2	骨格系	内頭蓋底・眼窩を説明できる。
15	7	30	2	筋系	筋概論について説明できる。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	解剖学(医師薬出版株式会社)		解剖学講義第2版(伊藤 隆著、高野 廣子 改訂)(南山堂)	
	%			グレイ解剖学(塩田浩平等訳)(エルセビア・ジャパン)	
	%			ムーア臨床解剖学(坂井建雄監訳)(メディカル・サイエンス・インターナショナル)	
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

4限目(14:20~15:50)

科目名	解剖学2			学年	1年	期生
担当者				期別	後期	
単位数	1単位			講義・実習	講義	
時間数・授業回数	30H・15回			専任・兼任	兼任	
実務経験	歯学博士取得、大学勤務、大学名誉教授、大学非常勤講師					
一般目標(GIO)						
<p>解剖学は医療にたずさわるものに取り、非常に重要な基礎学問である事を理解する。</p> <p>解剖学を学ぶことにより、人体の肉眼解剖学的及び組織学的、更には細胞学的知識が理解できる。</p> <p>特に、運動系である骨と筋について、又脈管系について詳細に解説ができる。</p>						
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)	
1	10	1	2	筋系	頭頸部の筋について説明できる。	
2	10	8	2	筋系	胸部の筋について説明できる。	
3	10	15	2	筋系	腹部の筋について説明できる。	
4	10	22	2	筋系	背部の筋について説明できる。	
5	10	29	2	筋系	上腕部の筋について説明できる。	
6	11	5	2	筋系	前腕部及び手の筋について説明できる。	
7	11	12	2	筋系	内寛骨筋・外寛骨筋について説明できる。	
8	11	19	2	筋系	大腿部の筋について説明できる。	
9	11	26	2	筋系	下腿部及び足の筋について説明できる。	
10	12	3	2	脈管系	循環器概論について説明できる。	
11	12	10	2	脈管系	心臓の構造について説明できる。	
12	12	17	2	脈管系	心臓の制御について説明できる。	
13	12	24	2	脈管系	動脈について説明できる。	
14	1	14	2	脈管系	静脈について説明できる。	
15	1	c	2	脈管系	リンパについて説明できる。	
評価基準			教科書		参考書	
筆記試験	100%	解剖学(医師薬出版株式会社)		解剖学講義第2版(伊藤 隆著、高野 廣子 改訂)(南山堂)		
	%			グレイ解剖学(塩田浩平等訳)(エルセビア・ジャパン)		
	%			ムーア臨床解剖学(坂井建雄監訳)(メディカル・サイエンス・インターナショナル)		
	%					

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

4限目(14:20~15:50)

科目名	解剖学3		学年	1 年 期生	
担当者			期 別	前期	
単位数	1 単 位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	30H・15回		専任・兼任	兼任	
実務経験	米大学医学部先端イメージング研究センターの教授および医学部医学科解剖学の教授を兼任し、数々の研究・論文発表の実績と教育経験を持つ。				
一般目標 (GIO)					
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	4	12	1	消化器概論, 口概論	消化器全体の概略を説明する。口の構造の基本を説明できる。
2	4	19	1	口各論(口腔, 歯, 舌), 咽頭	口と咽頭の構造の詳細を説明できる。
3	5	10	1	食道, 胃	食道と胃, 構造の詳細を説明できる。
4	5	17	1	小腸(十二指腸, 空腸, 回腸)	小腸の構造の詳細を説明できる。
5	5	24	1	大腸(盲腸~肛門)	大腸の構造の詳細を説明できる。
6	5	31	1	肝臓と胆嚢	肝臓と胆嚢の詳細を説明できる。
7	6	7	1	膵臓と腹膜	膵臓と腹膜の詳細を説明できる。
8	6	14	1	呼吸器概論 外鼻	呼吸器全体の概略を説明する。外鼻の構造の基本を説明できる。
9	6	21	1	咽頭と喉頭, 気管と気管支	咽頭と喉頭, 気管と気管支の構造の基本を説明できる。
10	6	28	1	肺, 胸膜, 縦隔	肺, 胸膜, 縦隔の構造の詳細を説明できる
11	7	5	1	泌尿器概論 腎臓概論	泌尿器全体の概略を説明する。腎臓の構造の基本を説明できる。
12	7	12	1	腎臓各論	腎臓の構造の詳細を説明できる。
13	7	19	1	尿管, 膀胱, 尿道	尿管, 膀胱, 尿道の構造の詳細を説明できる。
14	7	26	1	男性生殖器	男性生殖器の構造の詳細を説明する。
15	7	31	1	女性生殖器	女性生殖器の構造の詳細を説明できる。
評価基準			教科書		参考書
		%	全国柔道整復学校協会監修教科書解剖学第2版		
		%	(医歯薬出版)		
		%			
		%			

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:40~12:10)

3限目 (12:40~14:10)

4限目 (14:20~15:50)

科目名	解剖学4			学年	1年 期生
担当者				期別	後期
単位数	1単位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回			専任・兼任	兼任
実務経験	短期大学の健康栄養学科の非常勤講師として勤務し、教育経験も豊富。				
一般目標(GIO)					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	10	4	1	体表解剖学1(骨格系, 筋系)	体表より触れられる骨格, 筋を説明できる。
2	10	11	1	体表解剖学2(脈管, 神経系)	体表より触れられる脈管, 神経系を説明できる。
3	10	18	1	内分泌系1(内分泌概論2, 下垂体-上皮小体)	内分泌系全体の概略を説明できる。下垂体-上皮小体の構造が説明できる。
4	11	1	1	内分泌系2(副腎-卵巣)	副腎、卵巣等の構造の詳細を説明できる。
5	11	8	1	神経系1(概論)	神経系全体の概略を説明できる。
6	11	15	1	神経系2(脳)	脳の構造の詳細を説明できる。
7	11	29	1	神経系3(脊髄, 伝導路)	脊髄と伝導路の構造の詳細を説明できる。
8	12	6	1	神経系4(末梢神経: 脊髄神経)	脊髄神経の構造の詳細を説明できる。
9	12	13	1	神経系4(末梢神経: 脳神経)	脳神経の構造の詳細を説明できる。
10	12	20	1	体表解剖3(生体計測)	生体計測が説明できる。
11	12	27	1	運動器系まとめ	骨格, 筋, 神経を総合的に説明できる。
12	1	10	1	感覚器系1(皮膚)	皮膚の構造の詳細を説明できる。
13	1	17	1	感覚器系2(視覚器)	視覚器の構造の詳細を説明できる。
14	1	24	1	感覚器系3(嗅覚器, 味覚器)	嗅覚器と味覚器の構造の詳細を説明できる。
15	1	31	1	感覚器系4(平衡聴覚器)	平衡聴覚器の構造の詳細を説明できる。
評価基準			教科書		参考書
			%	全国柔道整復学校協会監修教科書解剖学第2版	
			%	(医歯薬出版)	
			%		
			%		

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

4限目(14:20~15:50)

科目名	解剖学 5		学年	2年 期生	
担当者			期別	前期	
単位数	1 単位		講義・実習	座学	
時間数・授業回数	30時間 15回		専任・兼任	専任	
実務経験	臨床経験約15年、柔道整復師専科教員10年以上の臨床経験も教育経験も豊富な教員が担当する。				
一般目標(GIO)					
本科目は解剖学1の単位を履修した者を対象として骨学を中心に学ぶ					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	16	4	骨の総論 I	骨の役割を理解できる
2	4	23	4	骨の総論 II	骨を形状によって分類することができる
3	5	7	4	骨総論 III	骨の構造を理解できる
4	5	14	4	骨総論 IV	骨の発生と成長を理解できる
5	5	21	4	骨総論 V	骨表面の形状についての用語を理解できる
6	5	28	4	骨総論 VI	骨の連結を理解できる
7	6	4	4	骨各論 I	脊柱の構造を理解できる
8	6	11	4	骨各論 II	脊柱の連結を理解できる
9	6	18	4	骨各論 III	頭蓋の構造を理解できる
10	6	25	4	骨各論 IV	胸郭の構造を理解できる
11	7	2	4	骨各論 V	上肢骨の構造を理解できる
12	7	9	4	骨各論 VI	上肢の関節を理解できる
13	7	16	4	骨各論 VII	下肢骨の構造を理解できる
14	7	23	4	骨各論 VIII	下肢の関節を理解できる
15	7	30	4	骨各論 IX	指骨の構造を理解できる
評価基準			教科書		参考書
期末試験	100%		医歯薬出版 解剖学		プロメテウス解剖学 グレイ解剖学 他
	%				
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

科目名	解剖学 6		学年	3年 期生	
担当者			期別	後期	
単位数	1 単位		講義・実習	座学	
時間数・授業回数	30時間 15回		専任・兼任	専任	
実務経験	臨床経験約15年、柔道整復師専科教員10年以上の臨床経験も教育経験も豊富な教員が担当する。				
一般目標 (GIO)					
本科目は解剖学2の単位を履修した者を対象として筋学を中心に学ぶ					
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	9	27	2	筋総論 I	筋の形態と起始部、停止部を理解して説明することができる
2	10	4	2	筋総論 II	筋の作用を理解し、説明することができる
3	10	11	2	筋総論 III	筋の神経、構造を理解して説明することができる
4	10	18	2	筋総論 IV	筋の発生と成長を理解できる
5	11	1	2	筋総論 V	筋の補助装置の構造を理解して説明することができる
6	11	8	2	筋各論 I	頭部の筋について詳細を理解し説明することができる
7	11	15	2	筋各論 II	頸部の筋について詳細を理解し説明することができる
8	11	29	2	筋各論 III	胸部の筋について詳細を理解し説明することができる
9	12	6	2	筋各論 IV	呼吸の筋について詳細を理解し説明することができる
10	12	13	2	筋各論 V	腹部の筋について詳細を理解し説明することができる
11	12	20	2	筋各論 VI	背部の筋について詳細を理解し説明することができる
12	12	27	2	筋各論 VII	上肢帯および上腕の筋について詳細を理解し説明することができる
13	1	10	2	筋各論 VIII	前腕および手の筋について詳細を理解し説明することができる
14	1	17	2	筋各論 IX	下肢帯および大腿の筋について詳細を理解し説明することができる
15	1	17	2	筋各論 X	下腿および足の筋について詳細を理解し説明することができる
評価基準			教科書		参考書
期末試験	100%		医歯薬出版 解剖学		プロメテウス解剖学
	%				グレイ解剖学
	%				他
	%				

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:40~12:10)

3限目 (12:40~14:10)

科目名	生理学1	学年	1 年 期生
担当者		期 別	前期
単位数	1 単 位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回	専任・兼任	兼任
実務経験	(1)平成11年4月1日～平成17年3月31日 歯科大学 3年生薬理学実習担当 (2)平成13年4月1日～平成28年3月31日 専門学校 薬理学、生化学、歯科臨床概論 1年生、2年生、3年生講義 卒業試験作成 (3)平成13年4月1日～令和3年3月31日 専門学校歯科衛生士科 薬理学、生理学、口腔生理学 1年生、3年生講義 卒業試験作成 (4)平成15年4月1日～平成17年3月31日 歯科大学 2年生生理学実習担当 (5)平成16年4月1日～平成16年3月31日 歯科大学 1年生チュートリアル教育担当 (6)平成16年4月1日～平成16年3月31日 歯科大学 CBT問題作成担当 (薬理学) (7)平成16年4月1日～平成17年3月31日 歯科大学 6年生国家試験対策講義担当(薬理学) (8)平成17年4月1日～平成17年3月31日 歯科大学 既卒者国家試験対策講義担当(薬理学) (9)平成18年10月1日～平成19年3月31日 歯科大学 2年生生化学実習担当 (10)平成17年4月1日～現在に至る 大学口腔保健学科 薬理学、口腔生理学 1年生、2年生、4年生講義 (11)平成23年4月1日～現在に至る 大学薬学部 実務実習事前学習2 3年生講義 (12)平成22年4月1日～平成29年3月31日 専門学校 歯科アシスタント科 歯科学 1年生講義 (13)平成28年4月1日～現在に至る 専門学校 薬理学、生理学、口腔生理学 1年生、3年生講義 (14)平成23年9月1日～平成30年3月31日 短期大学歯科衛生学科 薬理学 1年生、3年生講義 卒業試験作成 (15)平成30年4月1日～現在に至る 専門学校柔道整復師科 生理学、高齢者・競技者の生理学的特徴・変化 1年生講義 (16)平成18年4月1日～現在に至る 歯科医院 歯科臨床従事		

一般目標 (GIO)

生理学は、人体の機能を明らかにし、その機能がどのようなメカニズムで現れるかを追求する学問である。柔道整復師を目指すにあたって技術の習得はもちろんであるが、人体やそれを構成する各要素(細胞、組織、器官)の働きや役割を理解することは大切なことである。この講義では、膨大な生理学の内容を体系的に理解し、国家試験及び将来の臨床役立つ生理学の知識を習得することを目的とする。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	4	11	1	生理学の基礎(1)	からだの化学的組成について説明できる。
2	4	18	1	生理学の基礎(2)	細胞の構成体の機能を説明できる。
3	4	25	1	生理学の基礎(3)	受動輸送、能動輸送について説明できる。
4	5	9	1	血液の生理学(1)	血液の組成、役割について説明できる。
5	5	16	1	血液の生理学(2)	免疫機能について説明できる。血液型を識別できる。
6	5	23	1	血液の生理学(3)	血液凝固の機序について説明できる。
7	5	30	1	循環の生理学(1)	心臓の構造、機能について説明できる。
8	6	6	1	循環の生理学(2)	不整脈について説明できる。
9	6	13	1	循環の生理学(3)	血圧について説明できる。
10	6	20	1	循環の生理学(4)	リンパ管系・循環の調節について説明できる。
11	6	27	1	循環の生理学(5)	局所循環、脳脊髄液循環について説明できる。
12	7	4	1	呼吸の生理学(1)	呼吸器の機能的構造について説明できる。

13	7	11	1	呼吸の生理学(2)	ガス交換、酸素の運搬、二酸化炭素の運搬について説明できる。
14	7	18	1	呼吸の生理学(3)	呼吸を調節する仕組みについて説明できる。
15	7	25	1	呼吸の生理学(4)	呼吸の異常について説明できる。
評価基準				教科書	参考書
			%		
			%		
			%		
			%		

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

4限目(14:20~15:50)



科目名	生理学2	学年	1 年 期生
担当者		期 別	前期
単位数	1 単 位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回	専任・兼任	兼任
実務経験	(1)平成11年4月1日～平成17年3月31日 歯科大学 3年生薬理学実習担当 (2)平成13年4月1日～平成28年3月31日 専門学校 薬理学、生化学、歯科臨床概論 1年生、2年生、3年生講義 卒業試験作成 (3)平成13年4月1日～令和3年3月31日 専門学校歯科衛生士科 薬理学、生理学、口腔生理学 1年生、3年生講義 卒業試験作成 (4)平成15年4月1日～平成17年3月31日 歯科大学 2年生生理学実習担当 (5)平成16年4月1日～平成16年3月31日 歯科大学 1年生チュートリアル教育担当 (6)平成16年4月1日～平成16年3月31日 歯科大学 CBT問題作成担当 (薬理学) (7)平成16年4月1日～平成17年3月31日 歯科大学 6年生国家試験対策講義担当(薬理学) (8)平成17年4月1日～平成17年3月31日 歯科大学 既卒者国家試験対策講義担当(薬理学) (9)平成18年10月1日～平成19年3月31日 歯科大学 2年生生化学実習担当 (10)平成17年4月1日～現在に至る 大学口腔保健学科 薬理学、口腔生理学 1年生、2年生、4年生講義 (11)平成23年4月1日～現在に至る 大学薬学部 実務実習事前学習2 3年生講義 (12)平成22年4月1日～平成29年3月31日 専門学校 歯科アシスタント科 歯科学 1年生講義 (13)平成28年4月1日～現在に至る 専門学校 薬理学、生理学、口腔生理学 1年生、3年生講義 (14)平成23年9月1日～平成30年3月31日 短期大学歯科衛生学科 薬理学 1年生、3年生講義 卒業試験作成 (15)平成30年4月1日～現在に至る 専門学校柔道整復師科 生理学、高齢者・競技者の生理学的特徴・変化 1年生講義 (16)平成18年4月1日～現在に至る 歯科医院 歯科臨床従事		

一般目標 (GIO)

生理学は、人体の機能を明らかにし、その機能がどのようなメカニズムで現れるかを追求する学問である。柔道整復師を目指すにあたって技術の習得はもちろんであるが、人体やそれを構成する各要素(細胞、組織、器官)の働きや役割を理解することは大切なことである。この講義では、膨大な生理学の内容を体系的に理解し、国家試験及び将来の臨床役立つ生理学の知識を習得することを目的とする。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	4	12	3	消化と吸収(1)	消化管の運動と調節について説明できる。
2	4	19	3	消化と吸収(2)	消化液の分泌機序について説明できる。
3	5	10	3	消化と吸収(3)	消化管ホルモン、肝臓、胆道系について説明できる。
4	5	17	3	栄養と代謝(1)	クエン酸回路、電子伝達系について説明できる。
5	5	24	3	栄養と代謝(2)	中間代謝、エネルギー代謝について説明できる。
6	5	31	3	体温とその調節	熱産生の機序、体温調節について説明できる。
7	6	7	3	尿の生成と排泄(1)	腎臓の構造と機能について説明できる。
8	6	14	3	尿の生成と排泄(2)	糸球体濾過について説明できる。
9	6	21	3	尿の生成と排泄(3)	尿細管におけるイオン、水の再吸収、分泌について説明できる。
10	6	28	3	内分泌系の機能(1)	ホルモンの一般的性質について説明できる。
11	7	5	3	内分泌系の機能(2)	視床下部ホルモンについて説明できる。
12	7	12	3	内分泌系の機能(3)	下垂体前葉ホルモン、下垂体後葉ホルモンについて説明できる。

13	7	19	3	内分泌系の機能(4)	甲状腺ホルモンについて説明できる。
14	7	26	3	内分泌系の機能(5)	副腎皮質ホルモンについて説明できる。
15	8	2	3	内分泌系の機能(6)	副腎髄質ホルモンについて説明できる。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験		100%	公益社団法人全国柔道整復学校協会監修		
		%	生理学 改訂第4版		
		%			
		%			

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

4限目(14:20~15:50)

科目名	生理学3	学年	1 年 期生
担当者		期 別	後期
単位数	1 単 位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回	専任・兼任	兼任

実務経験

- (1)平成11年4月1日～平成17年3月31日 歯科大学 3年生薬理学実習担当
- (2)平成13年4月1日～平成28年3月31日 専門学校  
薬理学、生化学、歯科臨床概論 1年生、2年生、3年生講義 卒業試験作成
- (3)平成13年4月1日～令和3年3月31日 専門学校歯科衛生士科  
薬理学、生理学、口腔生理学 1年生、3年生講義 卒業試験作成
- (4)平成15年4月1日～平成17年3月31日 歯科大学 2年生生理学実習担当
- (5)平成16年4月1日～平成16年3月31日 歯科大学 1年生チュートリアル教育担当
- (6)平成16年4月1日～平成16年3月31日 歯科大学 CBT問題作成担当 (薬理学)
- (7)平成16年4月1日～平成17年3月31日 歯科大学 6年生国家試験対策講義担当(薬理学)
- (8)平成17年4月1日～平成17年3月31日 歯科大学 既卒者国家試験対策講義担当(薬理学)
- (9)平成18年10月1日～平成19年3月31日 歯科大学 2年生生化学実習担当
- (10)平成17年4月1日～現在に至る 大学口腔保健学科  
薬理学、口腔生理学 1年生、2年生、4年生講義
- (11)平成23年4月1日～現在に至る 大学薬学部 実務実習事前学習2 3年生講義
- (12)平成22年4月1日～平成29年3月31日 専門学校 歯科アシスタント科 歯科学 1年生講義
- (13)平成28年4月1日～現在に至る 専門学校 薬理学、生理学、口腔生理学 1年生、3年生講義
- (14)平成23年9月1日～平成30年3月31日 短期大学歯科衛生学科 薬理学 1年生、3年生講義 卒業試験作成
- (15)平成30年4月1日～現在に至る 専門学校柔道整復師科  
生理学、高齢者・競技者の生理学的特徴・変化 1年生講義
- (16)平成18年4月1日～現在に至る 歯科医院 歯科臨床従事

一般目標 (GIO)

生理学は、人体の機能を明らかにし、その機能がどのようなメカニズムで現れるかを追求する学問である。柔道整復師を目指すにあたって技術の習得はもちろんであるが、人体やそれを構成する各要素(細胞、組織、器官)の働きや役割を理解することは大切なことである。この講義では、膨大な生理学の内容を体系的に理解し、国家試験及び将来の臨床役立つ生理学の知識を習得することを目的とする。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	10	3	1	内分泌系の機能(7)	膵臓のホルモンについて説明できる。
2	10	10	1	内分泌系の機能(8)	精巣のホルモンについて説明できる。
3	10	17	1	内分泌系の機能(9)	卵巣のホルモンについて説明できる。
4	10	24	1	生殖(1)	性染色体とその異常、性分化について説明できる。
5	10	31	1	生殖(2)	男性生殖器系、女性生殖器系について説明できる。
6	11	7	1	生殖(3)	卵巣周期、月経周期について説明できる。
7	11	14	1	生殖(4)	妊娠と分娩、乳汁分泌について説明できる。
8	11	21	1	骨の生理学(1)	骨の構造、骨の形成と成長について説明できる。
9	11	28	1	骨の生理学(2)	カルシウム代謝、リン代謝について説明できる。
10	12	5	1	体液の生理学	体液の恒常性を維持する仕組みについて説明できる。
11	12	12	1	神経の基本的機能(1)	静止膜電位、活動電位について説明できる。
12	12	19	1	神経の基本的機能(2)	神経の興奮伝導について説明できる。

13	12	26	1	神経系の機能(1)	体性神経系、自律神経系について説明できる。
14	1	9	1	神経系の機能(2)	内臓機能の調節について説明できる。
15	1	16	1	神経系の機能(3)	姿勢と運動の調節について説明できる。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験		100%	公益社団法人全国柔道整復学校協会監修 生理学 改訂第4版		
		%			
		%			
		%			

1限目 (9:00～10:30)

2限目 (10:40～12:10)

3限目 (12:40～14:10)

4限目 (14:20～15:50)

科目名	生理学4	学年	1 年 期生
担当者		期 別	後期
単位数	1 単 位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回	専任・兼任	兼任
実務経験	(1)平成11年4月1日～平成17年3月31日 歯科大学 3年生薬理学実習担当 (2)平成13年4月1日～平成28年3月31日 専門学校 薬理学、生化学、歯科臨床概論 1年生、2年生、3年生講義 卒業試験作成 (3)平成13年4月1日～令和3年3月31日 専門学校歯科衛生士科 薬理学、生理学、口腔生理学 1年生、3年生講義 卒業試験作成 (4)平成15年4月1日～平成17年3月31日 歯科大学 2年生生理学実習担当 (5)平成16年4月1日～平成16年3月31日 歯科大学 1年生チュートリアル教育担当 (6)平成16年4月1日～平成16年3月31日 歯科大学 CBT問題作成担当 (薬理学) (7)平成16年4月1日～平成17年3月31日 歯科大学 6年生国家試験対策講義担当(薬理学) (8)平成17年4月1日～平成17年3月31日 歯科大学 既卒者国家試験対策講義担当(薬理学) (9)平成18年10月1日～平成19年3月31日 歯科大学 2年生生化学実習担当 (10)平成17年4月1日～現在に至る 大学口腔保健学科 薬理学、口腔生理学 1年生、2年生、4年生講義 (11)平成23年4月1日～現在に至る 大学薬学部 実務実習事前学習2 3年生講義 (12)平成22年4月1日～平成29年3月31日 専門学校 歯科アシスタント科 歯科学 1年生講義 (13)平成28年4月1日～現在に至る 専門学校 薬理学、生理学、口腔生理学 1年生、3年生講義 (14)平成23年9月1日～平成30年3月31日 短期大学歯科衛生学科 薬理学 1年生、3年生講義 卒業試験作成 (15)平成30年4月1日～現在に至る 専門学校柔道整復師科 生理学、高齢者・競技者の生理学的特徴・変化 1年生講義 (16)平成18年4月1日～現在に至る 歯科医院 歯科臨床従事		

一般目標 (GIO)

生理学は、人体の機能を明らかにし、その機能がどのようなメカニズムで現れるかを追求する学問である。柔道整復師を目指すにあたって技術の習得はもちろんであるが、人体やそれを構成する各要素(細胞、組織、器官)の働きや役割を理解することは大切なことである。この講義では、膨大な生理学の内容を体系的に理解し、国家試験及び将来の臨床役立つ生理学の知識を習得することを目的とする。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	10	3	2	神経系の機能(4)	脳幹、小脳、大脳基底核の機能について説明できる。
2	10	10	2	神経系の機能(5)	新皮質運動野の機能について説明できる。
3	10	17	2	神経系の機能(6)	大脳皮質の機能分化、脳波について説明できる。
4	10	24	2	神経系の機能(7)	覚醒と睡眠について説明できる。
5	10	31	2	神経系の機能(8)	認知、言語、意思と感情、学習、記憶について説明できる。
6	11	7	2	筋肉の機能(1)	筋肉の種類を分類し、その特徴について説明できる。
7	11	14	2	筋肉の機能(2)	骨格筋の収縮の仕組みについて説明できる。
8	11	21	2	筋肉の機能(3)	平滑筋、心筋の収縮の仕組みについて説明できる。
9	11	28	2	感覚の生理学(1)	感覚の一般的性質について説明できる。
10	12	5	2	感覚の生理学(2)	体性感覚について説明できる。
11	12	12	2	感覚の生理学(3)	味覚について説明できる。
12	12	19	2	感覚の生理学(4)	嗅覚について説明できる。

13	12	26	2	感覚の生理学(5)	聴覚について説明できる。
14	1	9	2	感覚の生理学(6)	前庭感覚について説明できる。
15	1	16	2	感覚の生理学(7)	視覚について説明できる。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験		100%	公益社団法人全国柔道整復学校協会監修 生理学 改訂第4版		
		%			
		%			
		%			

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

4限目(14:20~15:50)

科目名	生理学5	学年	3年 期生
担当者		期別	前期
単位数	1単位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回	専任・兼任	兼任
実務経験	(1)平成11年4月1日～平成17年3月31日 歯科大学 3年生薬理学実習担当 (2)平成13年4月1日～平成28年3月31日 専門学校 薬理学、生化学、歯科臨床概論 1年生、2年生、3年生講義 卒業試験作成 (3)平成13年4月1日～令和3年3月31日 専門学校歯科衛生士科 薬理学、生理学、口腔生理学 1年生、3年生講義 卒業試験作成 (4)平成15年4月1日～平成17年3月31日 歯科大学 2年生生理学実習担当 (5)平成16年4月1日～平成16年3月31日 歯科大学 1年生チュートリアル教育担当 (6)平成16年4月1日～平成16年3月31日 歯科大学 CBT問題作成担当 (薬理学) (7)平成16年4月1日～平成17年3月31日 歯科大学 6年生国家試験対策講義担当(薬理学) (8)平成17年4月1日～平成17年3月31日 歯科大学 既卒者国家試験対策講義担当(薬理学) (9)平成18年10月1日～平成19年3月31日 歯科大学 2年生生化学実習担当 (10)平成17年4月1日～現在に至る 大学口腔保健学科 薬理学、口腔生理学 1年生、2年生、4年生講義 (11)平成23年4月1日～現在に至る 大学薬学部 実務実習事前学習2 3年生講義 (12)平成22年4月1日～平成29年3月31日 専門学校 歯科アシスタント科 歯科学 1年生講義 (13)平成28年4月1日～現在に至る 専門学校 薬理学、生理学、口腔生理学 1年生、3年生講義 (14)平成23年9月1日～平成30年3月31日 短期大学歯科衛生学科 薬理学 1年生、3年生講義 卒業試験作成 (15)平成30年4月1日～現在に至る 専門学校柔道整復師科 生理学、高齢者・競技者の生理学的特徴・変化 1年生講義 (16)平成18年4月1日～現在に至る 歯科医院 歯科臨床従事		

一般目標 (GIO)

1年生で履修した生理学を復習し、国家試験に対応できる力を身に付けることを目標とする。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	4	4	2	生理学の基礎	国家試験を解いて正答を導くことができる。
2	4	11	2	血液・循環 (1)	国家試験を解いて正答を導くことができる。
3	4	18	2	血液・循環 (2)	国家試験を解いて正答を導くことができる。
4	4	25	2	呼吸	国家試験を解いて正答を導くことができる。
5	5	9	2	消化と吸収	国家試験を解いて正答を導くことができる。
6	5	16	2	栄養と代謝・体温とその調節	国家試験を解いて正答を導くことができる。
7	5	23	2	尿の生成と排泄	国家試験を解いて正答を導くことができる。
8	5	30	2	内分泌系 (1)	国家試験を解いて正答を導くことができる。
9	6	6	2	内分泌系 (2)	国家試験を解いて正答を導くことができる。
10	6	13	2	骨の生理学	国家試験を解いて正答を導くことができる。
11	6	20	2	生殖	国家試験を解いて正答を導くことができる。
12	6	27	2	骨の生理学	国家試験を解いて正答を導くことができる。

13	7	4	2	神経系(1)	国家試験を解いて正答を導くことができる。
14	7	11	2	神経系(2)	国家試験を解いて正答を導くことができる。
15	7	18	2	感覚	国家試験を解いて正答を導くことができる。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験		100%	公益社団法人全国柔道整復学校協会監修 生理学 改訂第3版		
		%			
		%			
		%			

1限目(9:00～10:30)

2限目(10:40～12:10)

3限目(12:40～14:10)

4限目(14:20～15:50)



科目名	高齢者の生理学的特徴・変化	学年	1 年 期生
担当者		期 別	後期
単位数	1 単 位	講義 ・ 実習	講義
時間数・授業回数	15H・7.5回	専任 ・ 兼任	兼任
実務経験	(1)平成11年4月1日～平成17年3月31日 歯科大学 3年生薬理学実習担当 (2)平成13年4月1日～平成28年3月31日 専門学校 薬理学、生化学、歯科臨床概論 1年生、2年生、3年生講義 卒業試験作成 (3)平成13年4月1日～令和3年3月31日 専門学校歯科衛生士科 薬理学、生理学、口腔生理学 1年生、3年生講義 卒業試験作成 (4)平成15年4月1日～平成17年3月31日 歯科大学 2年生生理学実習担当 (5)平成16年4月1日～平成16年3月31日 歯科大学 1年生チュートリアル教育担当 (6)平成16年4月1日～平成16年3月31日 歯科大学 CBT問題作成担当 (薬理学) (7)平成16年4月1日～平成17年3月31日 歯科大学 6年生国家試験対策講義担当(薬理学) (8)平成17年4月1日～平成17年3月31日 歯科大学 既卒者国家試験対策講義担当(薬理学) (9)平成18年10月1日～平成19年3月31日 歯科大学 2年生生化学実習担当 (10)平成17年4月1日～現在に至る 大学口腔保健学科 薬理学、口腔生理学 1年生、2年生、4年生講義 (11)平成23年4月1日～現在に至る 大学薬学部 実務実習事前学習2 3年生講義 (12)平成22年4月1日～平成29年3月31日 専門学校 歯科アシスタント科 歯科学 1年生講義 (13)平成28年4月1日～現在に至る 専門学校 薬理学、生理学、口腔生理学 1年生、3年生講義 (14)平成23年9月1日～平成30年3月31日 短期大学歯科衛生学科 薬理学 1年生、3年生講義 卒業試験作成 (15)平成30年4月1日～現在に至る 専門学校柔道整復師科 生理学、高齢者・競技者の生理学的特徴・変化 1年生講義 (16)平成18年4月1日～現在に至る 歯科医院 歯科臨床従事		

一般目標 (GIO)

生理学は、人体の機能を明らかにし、その機能がどのようなメカニズムで現れるかを追求する学問である。柔道整復師を目指すにあたって技術を習得する。人体やそれを構成する各要素(細胞、組織、器官)の働きや役割を身につける。この講義では、膨大な生理学の内容を体系的に理解し、国家試験及び将来の臨床にも役立つ生理学の知識を習得する。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	10	4	3	細胞、組織の加齢現象	細胞の老化、組織の加齢現象について説明できる。
2	10	11	3	高齢者の生理学的特徴(1)	神経系、運動器系の変化について説明できる。
3	10	18	3	高齢者の生理学的特徴(2)	感覚器系、循環器系の変化について説明できる。
4	11	1	3	高齢者の生理学的特徴(3)	呼吸器系、消化器系、皮膚の変化について説明できる。
5	11	8	3	高齢者の生理学的特徴(4)	高齢期特有の疾患・障害について説明できる。
6	11	15	3	運動と加齢(1)	歩行機能について説明できる。
7	11	29	3	運動と加齢(2)	平衡機能について説明できる。
8	12	6	3	運動と加齢(3)	反応時間について説明できる。
9					
10					
11					
12					

13					
14					
15					
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	公益社団法人全国柔道整復学校協会監修			
	%	生理学 改訂第4版			
	%				
	%				

1限目 (9:00～10:30)

2限目 (10:40～12:10)

3限目 (12:40～14:10)

4限目 (14:20～15:50)

科目名	高齢者の生理学的特徴・変化	学年	1 年 期生
担当者		期 別	後期
単位数	1 単 位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	15H・7.5回	専任・兼任	兼任
実務経験	(1)平成11年4月1日～平成17年3月31日 歯科大学 3年生薬理学実習担当 (2)平成13年4月1日～平成28年3月31日 専門学校 薬理学、生化学、歯科臨床概論 1年生、2年生、3年生講義 卒業試験作成 (3)平成13年4月1日～令和3年3月31日 専門学校歯科衛生士科 薬理学、生理学、口腔生理学 1年生、3年生講義 卒業試験作成 (4)平成15年4月1日～平成17年3月31日 歯科大学 2年生生理学実習担当 (5)平成16年4月1日～平成16年3月31日 歯科大学 1年生チュートリアル教育担当 (6)平成16年4月1日～平成16年3月31日 歯科大学 CBT問題作成担当 (薬理学) (7)平成16年4月1日～平成17年3月31日 歯科大学 6年生国家試験対策講義担当(薬理学) (8)平成17年4月1日～平成17年3月31日 歯科大学 既卒者国家試験対策講義担当(薬理学) (9)平成18年10月1日～平成19年3月31日 歯科大学 2年生生化学実習担当 (10)平成17年4月1日～現在に至る 大学口腔保健学科 薬理学、口腔生理学 1年生、2年生、4年生講義 (11)平成23年4月1日～現在に至る 大学薬学部 実務実習事前学習2 3年生講義 (12)平成22年4月1日～平成29年3月31日 専門学校 歯科アシスタント科 歯科学 1年生講義 (13)平成28年4月1日～現在に至る 専門学校 薬理学、生理学、口腔生理学 1年生、3年生講義 (14)平成23年9月1日～平成30年3月31日 短期大学歯科衛生学科 薬理学 1年生、3年生講義 卒業試験作成 (15)平成30年4月1日～現在に至る 専門学校柔道整復師科 生理学、高齢者・競技者の生理学的特徴・変化 1年生講義 (16)平成18年4月1日～現在に至る 歯科医院 歯科臨床従事		

一般目標 (GIO)

生理学は、人体の機能を明らかにし、その機能がどのようなメカニズムで現れるかを追求する学問である。柔道整復師を目指すにあたって技術の習得はもちろんであるが、人体やそれを構成する各要素(細胞、組織、器官)の働きや役割を理解することは大切なことである。この講義では、膨大な生理学の内容を体系的に理解し、国家試験及び将来の臨床役立つ生理学の知識を習得することを目的とする。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	12	6	3	運動と身体発達(1)	小児期から青年期の発育特性について説明できる。
2	12	13	3	運動と身体発達(2)	小児期から青年期の骨・筋肉の発育と運動について説明できる。
3	12	20	3	運動と身体発達(3)	小児期から青年期の呼吸・循環機能と運動について説明できる。
4	12	27	3	運動と身体発達(4)	発育期の運動不足・過運動の影響について説明できる。
5	1	10	3	運動と身体発達(5)	運動の習熟について説明できる。
6	1	17	3	競技者の生理学的特徴(1)	スポーツ及びトレーニングによる適応について説明できる。
7	1	24	3	競技者の生理学的特徴(2)	競技者の神経機構の特性について説明できる。
8	1	31	3	競技者の生理学的特徴(3)	姿勢調節・眼球運動と姿勢制御について説明できる。
9					
10					
11					
12					

13					
14					
15					
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	公益社団法人全国柔道整復学校協会監修			
	%	生理学 改訂第4版			
	%				
	%				

1限目 (9:00～10:30)

2限目 (10:40～12:10)

3限目 (12:40～14:10)

4限目 (14:20～15:50)

科目名		学年	1 年 期生
担当者	坂本飛鳥	期別	前期
単位数	1 単位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回	専任・兼任	兼任
実務経験	一般病院勤務経験あり。大学リハビリテーション学科講師。		

一般目標 (GIO)

人間の運動に関する身体の機能と構造について基本的な知識を備えるために、正常な構造と機能について学修する。特に骨・関節・筋の構造と機能に重きをおいた講義を展開する。

身体構造の基礎知識を使用して身体の運動メカニズムを理解することが目標である。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	4	16	1	運動学の目的	運動学を学修する目的を認識する
2	4	23	1	運動のとらえ方	運動学の表現方法を理解し説明することができる
3	5	7	1	運動の表示	運動の表示を理解し説明することができる
4	5	14	1	運動の法則	運動の法則を理解し、身体構造との関係づけられる
5	5	21	1	仕事と力学的エネルギー	運動時の力学的エネルギーを理解し体感できる
6	5	28	1	骨・関節の構造と機能	骨関節の構造を説明できる
7	6	4	1	前半部まとめ	運動学の知識の確認と応用し運動を説明できる
8	6	11	1	骨格筋の構造と機能	骨格筋の構造と機能を説明できる
9	6	18	1	末梢神経・中枢神経	神経の構造と機能を説明できる
10	6	25	1	感覚・知覚	感覚と知覚の構造を説明できる
11	7	2	1	運動感覚と運動の制御機構	運動感覚と運動制御の意味を理解し説明できる
12	7	9	1	反射	反射のメカニズムを理解し説明できる
13	7	16	1	連合運動と共同運動	連合運動と共同運動のメカニズムを説明できる
14	7	23	1	随意運動	随意運動を理解し説明できる
15	7	30	1	総まとめ	運動学的知識を応用して身体運動を説明できる

評価基準		教科書	参考書
小テスト	50%	運動学 医歯薬出版株式会社	
定期考査	50%		
	%		
	%		

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:40~12:10)

3限目 (12:30~14:00)

科目名				学年	2年	期生
担当者				期別	前期	
単位数	1単位			講義・実習	講義	
時間数・授業回数	30時間・15回			専任・兼任	兼任	
実務経験	一般病院勤務経験あり。大学リハビリテーション学科講師。					
一般目標 (GIO)						
<p>人間の運動に関する身体の機能と構造について基本的な知識を備えるために、正常な構造と機能について学修する。 特に骨・関節・筋の構造と機能に重きをおいた講義を展開する。</p> <p>身体構造の基礎知識を使用して身体の運動メカニズムを理解することが目標である。</p>						
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)	
1	4	16	2	上肢帯の運動	上肢帯の構造とその運動メカニズムを説明できる	
2	4	23	2	肩関節の運動	肩関節の構造とその運動メカニズムを説明できる	
3	5	7	2	肘関節と前腕の運動	肘・前腕の構造とその運動メカニズムを説明できる	
4	5	14	2	手関節と手の運動	手関節・手の構造とその運動メカニズムを説明できる	
5	5	21	2	股関節の運動	股関節の構造とその運動メカニズムを説明できる	
6	5	28	2	膝関節の運動	膝関節の構造とその運動メカニズムを説明できる	
7	6	4	2	足関節と足部の運動	足関節の構造とその運動メカニズムを説明できる	
8	6	11	2	前半部分のまとめ	四肢の構造と運動メカニズムを説明づけられる	
9	6	18	2	体幹と脊柱の運動	体幹の構造とその運動メカニズムを説明できる	
10	6	25	2	胸郭の運動	胸郭の構造とその運動メカニズムを説明できる	
11	7	2	2	顔面および頭部の運動	顔・頭部の構造とその運動メカニズムを説明できる	
12	7	9	2	姿勢と歩行	姿勢と歩行の運動メカニズムを説明できる	
13	7	16	2	運動発達	運動発達の流れを理解できる	
14	7	23	2	運動学習	運動学習の理論を説明できる	
15	7	30	2	総まとめ	各関節の運動メカニズムを関連付けられる	
評価基準			教科書			参考書
小テスト	50%	運動学 医歯薬出版株式会社				
定期考査	50%					
	%					
	%					

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:40~12:10)

3限目 (12:30~14:00)

科目名		学年	3年	期生	
担当者		期別	後期		
単位数	1単位	講義・実習	講義		
時間数・授業回数	30時間 15回	専任・兼任	専任		
実務経験	臨床経験を持つ教員が運動学において臨床上、実際に遭遇する疾患に対しての運動器系の捉え方を修得するための講義を行う。				
一般目標 (GIO)					
<p>運動学3において各運動器の基本を理解し実際、出くわす傷病に対し適切な判断ができるようになる。                  また、本科目は、傷病に対する治療の基礎となることを認識し修得する。</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	9	25	1	運動学の目的	左記の説明ができる。
2	10	2	1	運動の表し方	左記について、図示し説明できる。
3	10	9	1	身体運動と力学①	力・テコについて説明できる。
4	10	16	1	身体運動と力学②	運動の法則・単位について説明できる。
5	10	23	1	運動の構造と機能	解剖学・運動学を交えて説明できる。
6	10	30	1	運動器の神経系	神経との関連を説明できる。
7	11	6	1	反射と随意運動	左記の関係性を説明できる。
8	11	13	1	四肢と体幹の運動	各筋の作用と複合運動を説明できる。
9	11	20	1	姿勢①	重心位置について図示し説明できる。
10	11	27	1	姿勢②	抗重力筋の説明できる。
11	12	4	1	歩行①	歩行周期を分類し評価できる。
12	12	11	1	歩行②	歩行時の重心移動について説明できる。
13	12	18	1	運動発達	原始反射について説明できる。
14	12	25	1	運動学習	各動機づけについて分類する。
15	1	8	1	総復習	1～14項のそれぞれを評価をする。
評価基準			教科書		参考書
期末テスト	100%	運動学		過去問集	
	%				
	%				
	%				

1限目 (9:00～10:30)

2限目 (10:40～12:10)

3限目 (12:40～14:10)

4限目 (14:20～15:50)